

# 総事業費15億円かけ病棟を全面建て替え

## 「熊本ホスピタウン構想」の実現目指す

（医）相生会・にしくまもと病院（熊本市富合町古閑）は2012年春の完成を目指し、病棟の全面建て替えを計画している。総事業費は約15億円。1988年に開院した同院施設の老朽化や狭隘（きようあい）化のため、敷地内西側の国道3号沿いに新棟を建設し管理部門を除く病院機能を移転する。地域の基幹病院として機能強化が求められているという同院では、今回の新棟建設を「住みよい町づくり」熊本ホスピタウン構想」実現に向けた取り組みとも位置付けているという。同院の林院長に計画について聞いた。（東）

### 新棟完成は2012年春

―新棟の概要を

林 鉄筋コンクリート造り6階建て、建築面積1700㎡、延べ床面積は現施設の約1千㎡増となる7500㎡です。1階は外来、2階はリハビリテーションスペース、手術室、厨房、3階は回復期リハビリ病棟（36床）、4階は外科一般病棟（40床）、5階は内科一般病棟（40床）、6階は療養病棟（30床）などを予定

―建設計画の進捗は

林 現在、基本設計が完了して、施工業者を選定しているところです。2012年春の完成を目指しています。

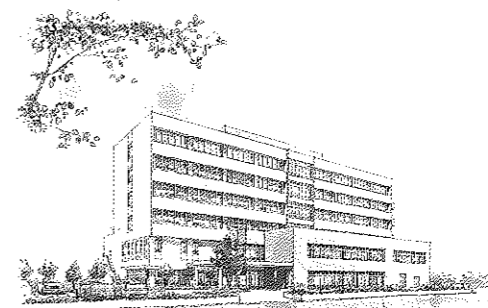
―現施設の用途は

林 新棟完成後も、現施設は可能であればすべて残したいと考えています。管理部門の事務所などを現在のまま残して、ほかの部分は住民の方に対して開放するなどを検討しています。11月2日からは院内にアンケートボックスを

## 院長 茂病に

## にしくまもと

設置して、職員からの意見を募集しているところ



▲新棟の完成イメージ

熊本市南部の「熊本ホスピタウン構想」を計画

―新棟建設の経緯は

林 既存の建物が老朽化しているという理由もありますが、私自身がかねてから推進していた「熊本ホスピタウン構想」の実現に向けた取り組みだと位置付けています。

―「熊本ホスピタウン」とは

林 これまでも医師や看護師、リハビリ士などの増強は常時行っており、2009年より消化器内科、泌尿器科、整形外科、消化器外科などの

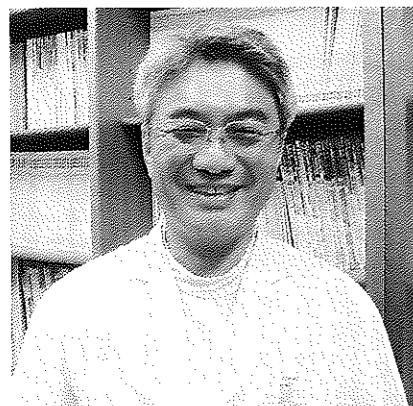
を希望する方に対して「住みよい町」という意識を持つてもらえるはずで、地域人口を増やすという意義もありますので、行政側が賛同するメリットも大きいのではないのでしょうか。

―構想の実現に向けて、まず取り組むべきことは

林 地域の将来的な町づくりの方向性を決めるマスタープランを作り上げることです。現在、富合地区で進んでいる政令市や新幹線などの情報にタイムリングを計ったハード面の開発に対しては、プランのつとって地域で足並みをそろえたものにすべきだと考えています。

―最後に

林 医療人という立場から住みよい町づくりを考えた結果たどり着いたのが、ホスピタウン構想です。私たちの考えに賛同してくださる方を一人でも多く募り、構想を現実のものにしていきたいと思えます。



はやし・しげる  
1949年3月1日生まれ、61歳。熊本高校—熊本大学医学部卒。白水村（現南阿蘇村）出身。県内外の病院などに勤務後、91年副院長として同院入職、92年から同院長。

米子市が先進地となっており、同地の（医）真誠会（小田貢理事長）が運営する真誠会セントラルクリニックを核に地域の医療施設、老健施設などの連携を深めた「米子ホスピタウン」として整備されています。当院では93年頃から米子市への視察訪問を繰り返し、同年に米子ホスピタウンと姉妹提携を結びました。96年以降は毎年交流会も開催しています。

―自身が目指すホスピタウンは

林 まずは熊本市の南エントランスである富合町とその周辺地域に「医療」「福祉」「保健」の充実した安心して住みやすい

町をつくることを目指しています。急性期・回復期・療養型病院や専門病院、クリニック、グループホーム、特別養護老人ホーム、老健施設、ケアハウスなどの相互連携を行い、さらに市町村などの行政との緊密な連携も必要です。

―にしくまもと病院としての役割は

林 当院はリハビリテーションに特化した病院として、亜急性期から回復期の治療を手掛けて維持期へとつなぐ、いわゆるハブ機能を担うこととなります。

―ホスピタウン構想の実現で期待されることは

林 地域への定住者の増加ですね。熊本市は2012年に政令指定都市への移行が予定されていますし、九州新幹線全線開業というタイミングにも重なることで当院の目の前にも大規模な車両基地が建ち、富合駅の整備も計画されています。



▲富合町古閑のにしくまもと病院。正面に「熊本ホスピタウン」と表記している

新幹線の開業後、富合地区は福岡都市圏で働く方の通勤エリアとなることも予想され、そういった方々のベッドタウンとして開発することが可能です。幸いなことに当地区は天草や阿蘇などの観光地へのアクセスも良いので、都市圏で働き、休日は近隣観光地へ、という生活スタイルを提案することもできます。そこに「熊本ホスピタウン」という生活に密接した要素の充実を加えることで、都市近郊での定住